

学校だより



津市立櫛形小学校
R5.10.24 発行
第10号 文責:校長

☆☆ 学び・つながり・楽しんだデイキャンプ!! ☆☆



10月6日(金)に5年生が津市神戸の青少年野外活動センターでデイキャンプを行いました。学校で給食を食べて1時に学校出発! 野外活動センターに到着すると、キャンプ実行委員によるオープニングセレモニー。

続いて平和学習です。津平和のための戦争展実行委員会事務局長の亀井浩先生を講師にお招きして、神戸地区内の民家のレンガ塀や神戸乃神社に残る当時の弾痕や慰霊碑を巡ってお話を聞きました。石の鳥居に残る弾痕を見つけた子どもたちは、その威力に驚き、身近な場所に残る傷跡から、過去に合った事実を見つめ、それぞれの子どもたちが平和の大切さに考える機会となったと思います。



平和学習のフィールドワークの後は、実行委員が考えてくれたレクリエーションを楽しみ、15時30分からは夕食準備、野外炊飯です。すすで顔を真っ黒にしながら懸命に火を起こしたり、慣れない手つきで包丁をもち野菜を切ったり、見ている方がハラハラする場面もありましたが、子どもたちは真剣そのもの。みんなが協力しあって、自分の役割を果たし、また学校での練習を活かして、おいしいご飯とカレーを作ることができました。食後は後片付けもしっかりできました。



お腹が満たされた後は、待ちに待ったキャンプファイヤーです。実は、平和学習のフィールドワーク中の風速は7メートル。キャンプファイヤーは危険と判断して、キャンドルファイヤーに切り替えて準備していましたが、5年生の子どもたちの願いが通じたのか、夕食ごろから風がおさまってきたので、急遽キャンプファイヤーの準備に入りました。子どもたちは願いが叶って大喜び。大いに盛り上がり、楽しい時間となりました。12人で力を合わせてやり切った新たな一面を発見したり、仲間との絆を更に深めたり、そして高学年としての自覚を一段と高めるものとなったと思います。



データから見る檜形小学校 Part 2



令和5年度全国学力・学習状況調査の結果

学校だより第9号で、学力調査の結果をお知らせしましたので、第10号では学習状況調査の結果についてお知らせします。

質問	そう思う（本校）	全国・県との比較
国語の授業内容がよくわかる	82%	全国・県平均の約2倍
算数の授業内容がよくわかる	63.6%	全国・県平均プラス15%
国語の勉強は将来役に立つ	82%	全国・県平均プラス18%
算数の勉強は将来役に立つ	100%	全国・県平均プラス25%

国語そして特に算数に関しては、いま学んでいることが将来に役に立つ学習であることを子どもたちは実感しています。国語の授業内容が「よくわかる」と答えている子どもは、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせると100%。これは、学校としては嬉しい結果でした。更に子どもたちの力を伸ばせるよう授業研究に取り組みたいと思います。

算数については、「どちらかというと思わない」子どもが18%います。全国・県平均よりは「よくわかる」と答えている子どもは多いですが、積み重ねの学習である算数については、一人一人が「わかる喜び、学ぶ楽しさ」を実感できるよう、授業の工夫に取り組んでいきたいと思います。

質問	そう思う（本校）	全国・県との比較
話し合う活動で、自分の考えを深めたり広げたりできている	63%	全国・県平均の約2倍
自分と違う意見について考えるのは楽しい	36%	全国・県平均とほぼ同じ

「話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりできる」については、8割強の子どもが「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えています。その一方で「自分と違う意見について考える」ことを楽しいと感じる子どもが4割弱。3割の子どもは「思わない」と答えています。話し合い活動には前向きに取り組むものの、多数意見と自分の意見が違った場合、考えを深めあう話し合いをすることには消極的な姿が見え隠れします。

質問	そう思う（本校）	全国・県との比較
学校生活をより良くするために話し合い、互いの意見の良さを活かして解決方法を決めている	50.5%	全国・県平均の約1.8倍
地域や社会をよくするために何かしてみたい。	50%	全国・県平均の1.5倍
将来積極的に英語を使う生活をしたり職業に就いたりしたい	65%	全国・県平均の2倍

「学校生活をより良くするために話し合い、互いの意見の良さを活かして解決方法を決めている」「地域や社会をよくするために何かをしたい」について9割を超える子どもが「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えています。檜形の強みが活かされている結果であるとともに、地域や社会のために貢献していこうという気持ちを持ってきていることを嬉しく思いました。そして、「将来積極的に英語を使う生活や職業に就きたい」子どもが「どちらかといえばそう思う」子どもを含めて8割いることに頼もしさを感じました。